

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 助教

氏名 伊藤哲郎

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

附属動物病院、小動物臨床研究室に所属し、伴侶動物の内科および腫瘍内科分野の教育・研究活動を行っている。学部学生に対する教育活動は、臨床獣医学教育分野の伴侶動物の内分泌代謝性疾患、リンパ系腫瘍、口腔疾患を担当し、講義で疾患の全体像を伝え、臨床実習では実際の臨床例を用いて具体的な診断アプローチ、治療法を経験、習得させている。

授業外では動物病院内科の診療科長として内科診療を統括し、動物病院に所属する研修獣医師に対する卒後内科研修指導を行っている。日本獣医がん学会、獣医腫瘍科認定医Ⅰ種に認定されており、学会の認定医認定委員会に所属して認定医講習会、認定医試験を通じて卒後専門教育を行っている。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
基礎・小動物獣医総合臨床	獣医学科	必修	4	130
獣医総合臨床実習	獣医学科	必修	5	130
小動物獣医総合臨床	獣医学科	必修	5	130
小動物臨床実習	獣医学科	必修	5	130
総合獣医学	獣医学科	必修	6	130
小動物病院実習	獣医学科	選択	6	30
獣医学特論Ⅰ	獣医学科	必修	5	3
獣医学特論Ⅱ	獣医学科	必修	6	3
卒業論文	獣医学科	必修	6	3

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

実際の臨床例に対応する上で重要なことは、問題となっている臨床徴候を適切に把握し、解決のための治療方針を計画できることである。

人間と同様に伴侶動物の寿命も延長し、病院を受診する動物も高齢化している。高齢動物は臨床徴候の原因となっている生体機能・構造の異常以外にも、様々な加齢性変化が含まれた検査結果を示す。様々な臨床徴候について、実際の症例を通じて背景に存在する病態生理学を理解することを積み重ね、問題となる臨床徴候の原因確認、重症度把握のために臨床検査を活用する意識を学生に植え付けてゆきたい。

治療方針に関しても、疾患に対する最善の治療方針を各症例が持つ条件を加味して最適化することを実際の症例での経験を通じて習得させてゆきたい。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

上記の理念を実現するために、学生には自分が対面している症例から得た情報を言語化して、他者と共有するトレーニングを繰り返し行わせる。症例に発生している問題・臨床徴候を適切な獣医学用語に変換するトレーニングは、症候学における用語の真の意味、用語の背景に存在する病態生理学の理解につながる。これを教員、学生同士と共有することを繰り返し、適切に使いこなせる症候学獣医学用語の語彙力を増強する。

臨床検査の選択、結果の解釈についても言語化して、他者と共有するトレーニングを繰り返すことで、検査により得られた数値、画像の変化に対する理論的背景を習得する。

治療方針の最適化についても、自ら立案した方針の言語化および他者とのディスカッションを通じて、治療方針を最適化する上で配慮すべきポイントを習得できると考える。

これらの“症例情報の言語化”が学生に有益に働くための準備として、座学での講義段階で各種臨床徴候について丁寧な背景説明を繰り返す。また臨床実習開始直前の座学での事前実習では、模擬症例を用いたグループディスカッション、全体へのプレゼンテーションの場を設け、情報共有の有用性を理解させる。また与えられた模擬症例と関連する症例報告に触れさせ、同一疾患の中に存在する様々なバリエーションを理解しておくことの重要性に気づかせるよう準備する。

臨床実習中は個々の学生にはショートレクチャーで対応し、診療後の症例検討会において各自の対面した症例情報を総括してプレゼンテーションさせ、ディスカッションする機会を設ける。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

模擬症例を用いた診断・治療方針決定に関するグループワーク、プレゼンテーション
症例検討会におけるプレゼンテーション、ディスカッション

(2) ICTの教育活用

有

電子カルテシステムに蓄積された症例情報（臨床徴候の動画、検査結果データ、顕微鏡写
真・X線検査・超音波検査など画像）の学生への提示
教員、研修医がウェアラブル端末装着下で実施した臨床手技動画を活用した学生の事前実習
蓄積された検査記録の統計分析による新規治療の理論的根拠提供

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

アクティブラーニング、ICTを活用し、学生のアウトプット機会増加につとめている

(2) 学生の理解度の把握

B

レポート、定期試験による評価を行っている。定期試験結果を分析し、不正解の多い分野お
よび不正解に陥る誤りの判断根拠を明らかにする取り組みを行っている。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

授業時間で補完できない内容について教材となる書籍、動画資料を紹介している。模擬症例
を用いたグループワークでは関連する症例報告を紹介している。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

主にメールで対応している。実習中はショートレクチャーにより付加情報を与え、自学自習
を促すようにしている。

(5) 双方向授業への工夫

B

学生に容易に解答できる質問を投げかけ、さらに解答にいたる過程を説明してもらうようにして双方向性の導入を試みている。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

B

過去10年間の出題傾向を分析し、頻出分野について、通常の講義で割愛した詳細情報（実際の臨床例のデータ、画像など）を説明した。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

5年次小動物臨床実習において同一症例の治療経過を見られないことが残念であるとのアンケート回答があったため、6年次小動物病院実習で治療経過を見られるように実習に合わせて再診日程を調整した。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

6年次小動物病院実習を受講した複数の学生から、同じ症例の治療経過をしっかりと確認できたことで理解が深まったとの感想が得られた。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

可能な範囲で、治療経過を見られるように実習に合わせた診療スケジュール調整を考える。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

講義内で取り扱う情報量を意図的に減らして重要なポイントを伝える。講義後に実施する振り返りを目的とした小テストでは、講義内容と関連させつつ教科書等で自習しなければ解答できない問題を出題して全体像の理解を促す。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

定期試験の解答内容において、禁忌と考えられる内容を解答する学生が減少した。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

2023/7/10 『グッドティーチング 賞授賞者から学ぶ“授業の工夫”』及び『教育改善プログラム成果報告』

2023/10/5 我が国のコンピテンス基盤型医学教育のこれまでと未来

2023/12/22 「本学のディプロマポリシー（DP）に関する評価指標と近年の分析結果について」「麻布サイエンスリテラシー・コンピテンシーテストの解析結果（2023年度）および麻布出る杭研究プロジェクト参加学生の成長度について」

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

内科診療を担当する複数の教員間で教育理念について再評価を行う（2024年3月）

学生の臨床実習を担当する学外機関と教育理念、方法について再評価を行う（2024年8～9月）

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

基礎・小動物獣医総合臨床 講義資料

内分泌代謝病学

小動物獣医総合臨床

リンパ系腫瘍、化学療法、内分泌代謝性疾患、口腔疾患 講義資料

小動物臨床実習

臨床推論演習資料